

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会  
確率論的安全評価（レベル1及びレベル2）分科会  
第8回 レベル2 PSA作業会 議事要旨

日時：平成16年10月26日（火） 13:30～17:30

場所：原子力安全基盤機構 第13会議室

出席者：

委員 梶本、住田、立岩、石川、大野、岡島、加藤、倉本、黒田、桜本、濱崎、佐藤(久持代理)、日高、山越 14名

配布資料：

P4WG8-1 第7回作業会議事要旨（案）

P4WG8-2 7.2.3事故緩和系の機能喪失確率の解析（PWRグループ）

P4WG8-3 レベル2 PSA標準（案） PWRグループコメント

P4WG8-4 レベル2 PSA標準（案）

P4WG8-5 レベル2 PSA標準（案） 8章（立岩）

議事概要

1) 前回議事要旨確認（P4WG8-1）

- ・ 5)について以下の取消線部分を削除することとした。

「（前略）評価すべき項目の討議があったが、を明示してもらいたくない旨のコメントが出されたようだが、レベル2 PSA特有の不確かさ、例えばエアロゾル粒径などの等についてそれをパラメータとして必ず評価することを要求事項とはしないが、重要なパラメータについては（後略）」

2) レベル2 PSA標準（案）（P4WG8-2～5）

標準（案）について以下の議論があった。

- ・ CV脅威事象を事故シーケンスと称するとレベル1の事故シーケンスと混同するのではないか。

➤意味が明確となるよう「炉心損傷に至る事故シーケンス」、「格納容器破損に至る事故シーケンス」のような枕詞をつけることとするとの提案が主査よりあり、レベル1 PSAとの調整を図ることになった。

- ・ 分岐確率の算出に関する記述を7.2.3に入れるのは不自然。

➤「8章事故シーケンスの定量化」に分岐確率の算出をもっていくこととする。8章の構成についてはJNESにて検討した後、BWRグループ（東電）にて本文を作成する。当該部分の解説は後日作成する。

- ・ 本標準でLERFをソースターム評価の章で記載する。格納容器破損頻度の項で、早期格納容器破損を特別に記載するかどうかを検討する。レベル1 PSAの結果も活用することを考えると、早期格納容器破損の項目があると便利である。

- ・ 事故シーケンス解析を全プラントについて毎回実施するのではなく、類似したプラントの解析結果や既存の解析結果で代用できるような記載ぶりとして欲しい。

→類似プラントの解析結果を安易に流用することがないように、記載には留意する必要がある。

- ・ 「7章事故進展解析」の章立ては現状、他の章や項との関連が十分に整理されていないので、JNESにて改定案を検討する。

- ・ 次回作業会で本文をほぼ固めて、12月の分科会に提出できるようにする。

第9回作業会予定：11月26日（金）

以上